



校長室より



令和5年6月12日

No.5

台風2号の傷跡が生々しく残る県内ですが、日本の南の海上でできた台風が梅雨前線を刺激するパターンは今後しばらく続きそうですね。

暗いニュースが多い中ですが、みはま支援学校には、認定NPO法人ミュージック・シェアリング訪問プログラム2023の事業で、6月12日（月）、世界的ヴァイオリニストである五嶋みどりさんと若手音楽家による弦楽四重奏団（ICEPカルテット）のコンサートが開催されました。

本物の演奏を聴く機会が少ない児童生徒にとって、近くで音楽家さんと交流したり、生演奏を聴かせてもらったりする貴重な体験です。児童生徒たちも楽しみにしていたコンサートで、ウェルカムボードなどを準備して心待ちにしていました。



和歌山病院に入院している一学部の児童生徒のために、4人の音楽家さんたちは楽器を持って別れて各病棟に入ってください、目の前で演奏を披露してくれたり、貴重な楽器にも触れさせてくれたりしました。

通学生の二学部の児童生徒たちは、一同体育館の観客席に座り、演奏を聴きました。モーツァルト、メンデルスゾーン、エルガー、ハイドン、チャイコフスキーの5曲を演奏していただきました。指揮者がいないのに、お互いの動きや呼吸で合わせていくカルテットのすごみや四人で楽器を介して会話をしているような演奏、同じ空間にいる者を包んでくれる優しい温もりのある演奏を聴かせていただきました。音楽は感情を共有し心をつなぎ合わせることのできる素晴らしいものですね。



演奏後の生徒からの質問では、呼吸の合わせ方やリズムの取り方など感じたままの率直な意見が出ていましたね。「初めて聴いたこの感動を全国の学校にも届けてあげてほしい」とお礼の言葉を述べていた生徒会長もグッジョブです。